

がいようばん
概要版

だい き
第4期

よこはまし
横浜市
きょういくしんこうきほんけいかく
教育振興基本計画

2022-2025

にほんご
(やさしい日本語)



※この本はやさしい日本語で書いてあります。
正式な文書は「第4期横浜市教育振興基本計画
概要版」です。

もくじ 目次

CONTENTS



📌 計画を作った理由・考え	1
1 この計画はどんな計画？ / 2 横浜市の学校(市立学校)との関わりについて /	
3 計画の期間 / 4 横浜市が決めた他の計画との関係	
📌 「横浜教育ビジョン2030」	2
1 横浜の教育が目指すづくり / 2 横浜の教育が育む力 /	
3 横浜の教育の方向性	
📌 計画は次のように作りました	2
📌 第4期教育振興基本計画の大事なポイント	3
📌 第4期横浜市教育振興基本計画の3つの大事なポイントを分かりやすくしたものの(イメージ図)	4,5
📌 計画体系	6
📌 各柱の内容	
柱1 子ども一人ひとりを大切に、授業や勉強ができるようにします	
施策1 主体的・対話的で深い学びの実現(自分から学び、話し合いをすることで、より深い学びができるようになります)	7
施策2 コンピューターなどのデジタル技術を使って授業を良くします	7
施策3 特別支援教育を進めます	9
施策4 いろいろな子どもの状況に合わせた教育をすすめます	9
施策5 新しい時代に向けた高校教育を進めます	10
施策6 9年間続けて勉強できるようにしていきます。幼稚園・保育園・小学校が協力できるようにします	10
柱2 いっしょに未来をつくる力を育てます	
施策1 英語の勉強を今よりも良いものにします。いろいろな国のことを勉強します	11
施策2 未来のために、環境や資源をこわさないで、より良い社会を作ることができる人を育てます	11
柱3 豊かな心を育てます	
施策1 人が生まれながらにもつ権利を大切にすることをします	12
施策2 安心して勉強できる学校づくり	12
柱4 健康な体を作ります	
施策1 健康な体を作ります。中学校で給食を出すようにします	13
柱5 家庭・地域など、いろいろな人・場所と協力する	
施策1 いろいろな人・場所とつながる教育をより良くします	14
施策2 福祉に関係するところや病院などと協力をして、子どもを支えます	14
施策3 家庭での教育を助けます	14
柱6 元気に働き、勉強を続ける学校の先生	
施策1 学校の先生になる時の試験や、先生になった後の働き方を変えます	15
柱7 安全・安心でより良い教育環境	
施策1 学校の建物を新しくします	16
施策2 安全・安心な場所にします	16
施策3 ちよいどいい学校の大きさや、どこに住んでいる子どもが通うかを考えます	16
柱8 市民の豊かな学び	
施策1 生涯学習ができるようになります	17
施策2 新しい図書館を考えます。みんなが本を読むようになります	17
施策3 横浜の歴史の勉強ができるところを増やします	17



けいかく つく りゆう かんが 計画を作った理由・考え



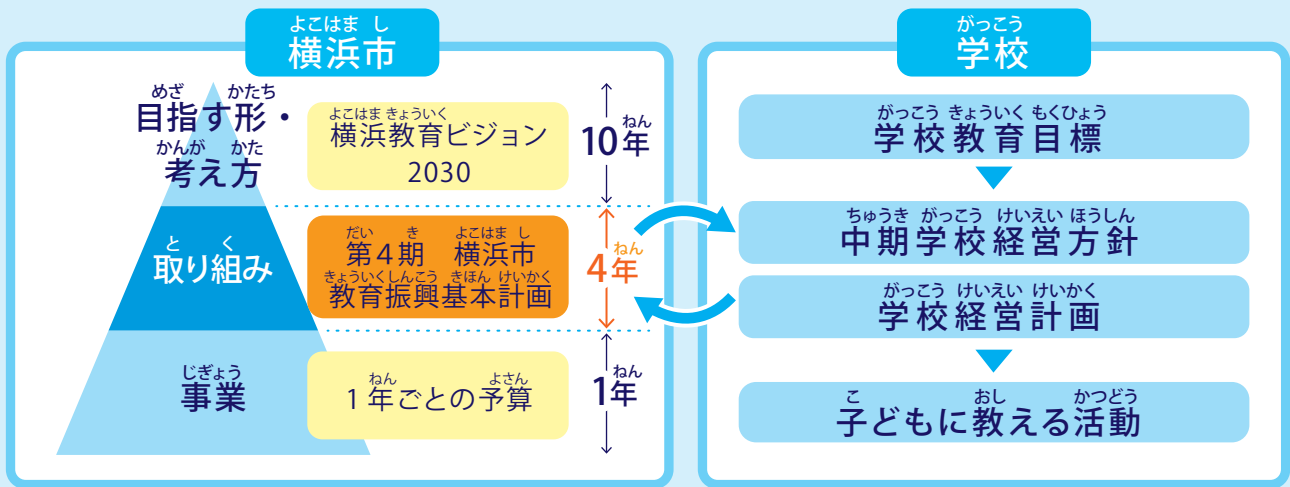
1 この計画はどんな計画?

2018年、横浜市では、2030年頃の社会のことを考えて、どのような教育をめざすのかまとめました。これを「横浜教育ビジョン2030」と言います。ビジョンを実現するための計画が、「第4期横浜市教育振興基本計画」です。(「4期計画」と言います。) また、法律(教育基本法第17条第2項)で決められた計画(「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」)でもあります。

2 横浜市の学校(市立学校)との関わりについて

「横浜教育ビジョン2030」では、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を育てることをめざしています。学校では目標を決めて、3年間の計画(中期学校経営方針)や、1年間の計画(学校経営計画)など、いろいろな計画を作っています。

横浜市全体で良い教育ができるように、「4期計画」に合わせて、計画を作ることが大切です。教育委員会も、学校がどのような状態であるかを確認し、助けます。



3 計画の期間

4年間: 2022年度～2025年度

4 横浜市が決めた他の計画との関係

4期計画を作る時は、横浜市のほかの計画(「横浜市中期計画2022～2025」や「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」など)と関係する部分がある場合は、内容や考え方を合わせるようにします。

1横浜市の中で、同じ教育をするために、2022年度からは、4期計画の第一章を「横浜市教育大綱」をかねることとします。これは、2021年度横浜市総合教育会議で決めました。



よこはま きょういく 横浜教育ビジョン2030

1 1 横浜の教育で育てようとしている人

みづか まな しゃかい 未来 つく ひと
自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

2 横浜の教育が育てる力

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」になるために、子どもに身に付けてほしい力「知」「徳」「体」「公」「開」の5点にまとめました。5点の力を結び付けながら、それぞれの力を育てます。

<p>知</p> <p>自分で学び、学んだことを使っていく力</p>	<p>徳</p> <p>豊かな心</p>	<p>体</p> <p>健康な体</p>	<p>公</p> <p>助け合う心。社会とつながり、協力すること</p>	<p>開</p> <p>良い未来を作ろうとする気持ち</p>
---	-----------------------------	-----------------------------	---	---------------------------------------

3 横浜の教育がめざす方向

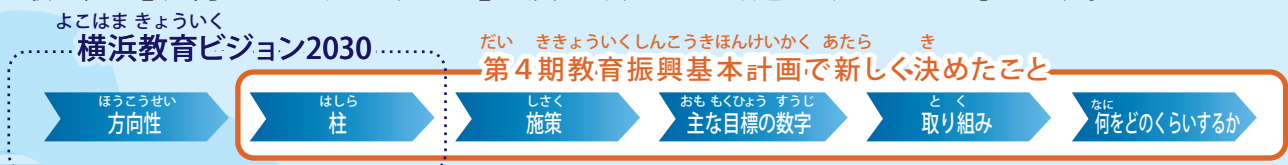
ひとり～一人ひとりのその人にしかない性格、いろいろな考えや気持ちを大切にします。まわりの人とのつながりを大切にします。～

<p>子どもの可能性（できること）を広げます</p> <p>方向性</p> <p>1</p> <table border="1"> <tr> <td>子どもが自分から学べるようにします</td> <td>より良い社会をつくるための学びができるようにします</td> </tr> <tr> <td>ささあふうど 支え合う風土</td> <td>子どもが学んで、育つことが続くようにします</td> </tr> </table>	子どもが自分から学べるようにします	より良い社会をつくるための学びができるようにします	ささあふうど 支え合う風土	子どもが学んで、育つことが続くようにします	<p>良い学校をつくれます</p> <p>方向性</p> <p>2</p> <table border="1"> <tr> <td>安心して勉強ができる学校</td> <td>社会とつながる学校</td> </tr> <tr> <td>げんき 元気に働く学校の先生</td> <td>まな つつ 学び続ける教職員</td> </tr> </table>	安心して勉強ができる学校	社会とつながる学校	げんき 元気に働く学校の先生	まな つつ 学び続ける教職員
子どもが自分から学べるようにします	より良い社会をつくるための学びができるようにします								
ささあふうど 支え合う風土	子どもが学んで、育つことが続くようにします								
安心して勉強ができる学校	社会とつながる学校								
げんき 元気に働く学校の先生	まな つつ 学び続ける教職員								
<p>教育環境を良くします</p> <p>方向性</p> <p>3</p> <table border="1"> <tr> <td>安全・安心な環境</td> <td>地域と協力する学校</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民の豊かな学び</td> </tr> </table>	安全・安心な環境	地域と協力する学校	市民の豊かな学び		<p>みんなで協力をして、子どもを支えます</p> <p>方向性</p> <p>4</p> <table border="1"> <tr> <td>家庭での教育を助けます</td> <td>さまざまな人・場所と協力をします</td> </tr> <tr> <td colspan="2">いつでも、困ることがないように助けます</td> </tr> </table>	家庭での教育を助けます	さまざまな人・場所と協力をします	いつでも、困ることがないように助けます	
安全・安心な環境	地域と協力する学校								
市民の豊かな学び									
家庭での教育を助けます	さまざまな人・場所と協力をします								
いつでも、困ることがないように助けます									



けいかく つぎ つく 計画は次のように作りました

「横浜教育ビジョン2030」で決めた教育の方向を考えて、柱と施策を決めました。（4期計画の柱は、ビジョンの方向で決めたことの一部をまとめて作りました。）施策ごとに、「主な目標の数字」、「取り組み」、「何をどのくらいするか」を決めて、どこまで進んでいるかを考えます。



第4期教育振興基本計画の大事なポイント

一人ひとりを大切に

子ども一人ひとりのその人にしかない性格、いろいろな考えや
気持ちを大切にします。「だれもが」「安心して」「豊かに」の人権を
大切にする教育をします。子どもの持っている力を育てます。

みんなの計画・みんなで実現

1人より多くの大人が、子どもに関わるようにします。
家庭・地域・子どもが関係するところ・会社・NPOなどと協力します。
みんな(チーム横浜)で子どもを育てます。

EBPM※を進めます

「横浜市学力・学習状況調査」などのデータを使って、
授業を良くしたり、子どもの気持ちをわかるようにします。
子どもに関わる人といっしょに、データなどをもとにした取組や
方法を使って、より良い教育につなげます。

※Evidence Based Policy Makingとは、データや数字をもとに、取組を考えること。

自ら学び 社会とつながり

わたしの・あなたの

1 大事なポイント

一人ひとりを大切に…

～「誰ひとり取り残さない」社会を作ります～

困っていたり、いろいろな苦しみを抱く子どもがいます。病気や障害がある子ども・日本語を教えてもらうことが必要な子ども・学校に行っていない子ども・誰かに話せないけれど苦しんでいる子ども。

26万人の子どもの個性に合わせた「成長」を大切にします。



特別支援学校や個別支援級

などに通う子ども……………約 14,000 人

日本語がわからない子ども……………約 3,100 人

学校に行っていない子ども……………約 6,600 人

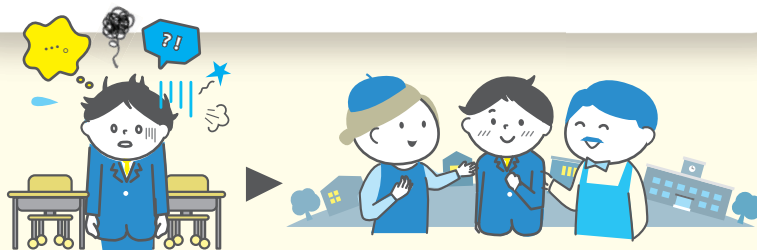


子どもの数
(2022.5.1)

2 大事なポイント

みんなの計画・みんなで実現

先生が1人だけで何でもすることはむずかしいです。学校や家、地域、会社、NPOなどと協力して、みんなで子ども(はまっ子)を育てます。



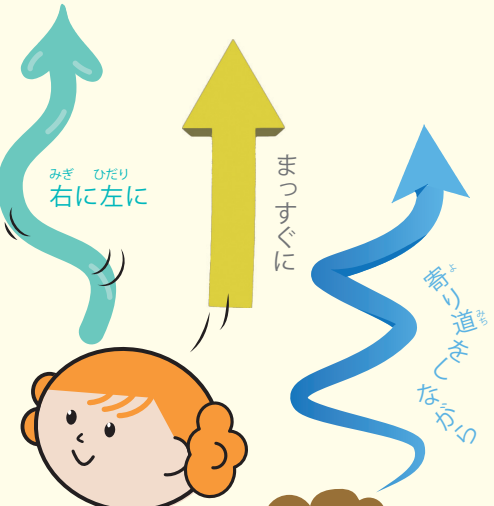
上の図は、右に書いてある3つの「大事なポイント」を、絵を使って説明しています。

【大事なポイント1】一人ひとりを大切に…安心して自分らしさを大切にしながら生活できるよう、人権を大切にする
【大事なポイント2】みんなの計画・みんなで実現…学校や家庭、子どもが関係するところ、地域、会社、NPOなどと
【大事なポイント3】EBPM※を進めます…「横浜市学力・学習状況調査」などのデータを使って、授業を良くしたり、

ともに未来を創る人

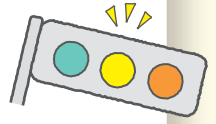
・みんなの成長

だいじ 大事なポイント **3**



経験や直感

× データ



先生の経験や直感と、データを使って、子どもの変わったところを見つけます。子どもの気持ちをわかるようにします。

EBPM※を進めます

※Evidence Based Policy Making とは、データや数字をもとに、取組を考えること。

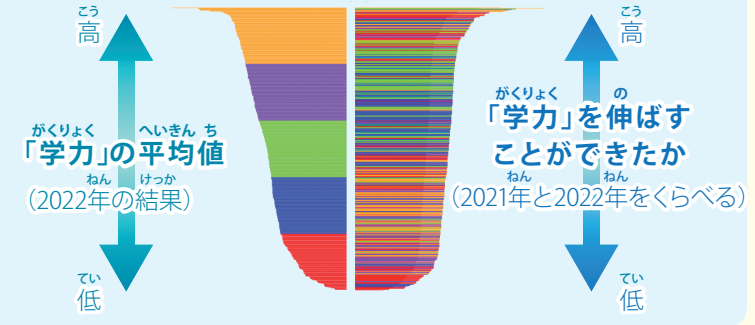


まん
26万
にん
3,118人



まわりの子どもの点数と比べません。一人ひとりの学力に合わせて、力を「伸ばす」教育をします。

「学力」の平均値が高い学校 ≠ 「学力」を伸ばす学校
どの学校も、子ども一人ひとりの「学力」を伸ばすことができる!!



※「学力」…横浜市学力・学習状況調査で調べることができる、学習したことが分かっているか、使えるようになっているかの様子。
出典:「2022年度横浜市学力・学習状況調査」

「学力」が伸びたかどうかを、大切な目標の1つにするのは、初めてです。

教育をします。子どもたちが持っている力を育てます。

協力して、みんなで子どもを育てます。

子どもの気持ちがわかるようにします。子どもに関わる人といっしょに、データなどをもとにした取組や方法を使って、より良い教育につなげます。



けいかくたいけい 計画体系

はしら 柱

しさく 施策

1

子ども一人ひとりを大切に、
授業や勉強ができるようにします

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現(自分から学び、話し合いをすることで、より深い学びができるようになります)
- 2 コンピューターなどのデジタル技術を使って授業を良くします
- 3 特別支援教育を進めます
- 4 いろいろな子どもの状況に合わせた教育をすすめます
- 5 新しい時代に向けた高校教育を進めます
- 6 9年間続けて勉強できるようにしていきます。幼稚園・保育園・小学校が協力できるようにします

2

いっしょに未来をつくる力を育てます

- 1 英語の勉強を今よりも良いものにします。いろいろな国のことを勉強します
- 2 未来のために、環境や資源をこわさないで、より良い社会を作ることができる人を育てます

3

豊かな心を育てます

- 1 人が生まれながらにもつ権利を大切に教育をします
- 2 安心して勉強できる学校づくり

4

健康な体を作ります

- 1 健康な体を作ります。中学校で給食を出すようにします

5

家庭・地域など、いろいろな
人・場所と協力する

- 1 いろいろな人・場所とつながる教育をより良くします
- 2 福祉に関係するところや病院などと協力をして、子どもを支えます
- 3 家庭での教育を助けます

6

元気に働き、勉強を続ける学校の先生

- 1 学校の先生になる時の試験や、先生になった後の働き方を変えます

7

安全・安心でより良い教育環境

- 1 学校の建物を新しくします
- 2 安全・安心な場所にします
- 3 ちょうどいい学校の大きさや、どこに住んでいる子どもが通うかを考えます

8

市民の豊かな学び

- 1 生涯学習ができるようにします
- 2 新しい図書館を考えます。みんなが本を読むようにします
- 3 横浜の歴史の勉強ができるところを増やします

はしら 柱 1 こ ひとり たいせつ じゅぎょう べんきょう 子ども一人ひとりを大切にしたい、授業や勉強ができるようになります



はしら 柱 1 施策

主体的・対話的で深い学びの実現

(自分から学び、話し合いをすることで、より深い学びができるようになります)

子どもが自分から学び、話し合いをすることで、より深い学びができるような授業にします。
子どももっている力を育てます。

これまで、学校の授業や体験活動などの中で、友だちやさまざまな人と協力して、子どもが学べるようになってきました。また、子どもが自分のペースで学べるようになってきました。これからもこの取り組みを進めていきます。子ども一人ひとりのできること・できないことに合わせて、教えることが必要です。

目標・方向

今の状態
と問題点

主な目標
の数字

目標の数字	今の数字 (2021年度)	目標の数字 (2025年度)
よこはま しがくりよくがくしゅうじょうきょうちようさ 横浜市学力・学習状況調査で、小学校6年の国語・算数、中学 校3年の国語・数学の「学力レベル」が伸びた子どもの割合*	しょう こくご 67.8% さんすう 62.7% ちゅう こくご 64.8% ずうがく 51.0% (2022年度)	しょう こくご 70% さんすう 70% ちゅう こくご 70% ずうがく 70%
自分たちで問題を見つけ、その解決のために、情報を集め たり、話し合いをしていると思う子どもの割合	しょう 71.8% ちゅう 65.6%	しょう 75% ちゅう 70%

※横浜市学力・学習状況調査で調べることができる、学習したことが分かっているか、使えるようになっているかの様子を表した42の段階

取り組み

1. 子ども一人ひとりの持っている力を育てるために、授業をより良くします。

- 「横浜市学力・学習状況調査」をより良いものにしていきます。コンピューターを使った調査 (CBT化) をすることを考えます。
- 横浜市教育課程研究協議会を開きます。

2. 子ども一人ひとりに合わせて勉強ができるようになります。学年の先生がみんなで見守るようになります。

- 「読みのスキル」向上推進校で勉強を教えます。放課後に、勉強できる時間や場所を用意します。
- 全部の小学校で、5年生～6年生は、科目ごとに先生が変わります。学年の先生がみんなで見守るようになります。

はしら 柱 2 コンピューターなどのデジタル技術を使って授業を良くします

子どもがコンピューターを使えるようになります。先生が子どもに使い方を
教えられるようになります。新しい教育センターを作ります。

小・中・特別支援学校の子ども1人に1台、コンピューターを用意しました。インターネットをえるようにしました。クラウドサービス
をえるようにしました。国の学習者用デジタル教科書の実証事業に参加しました。デジタル技術を使って授業をもっと良くする
ために、学校全体でコンピューターをえるようにしたり、そのための支援や、先生のスキルアップなども大切です。

目標・方向

今の状態
と問題点

主な目標
の数字

目標の数字	今の数字 (2021年度)	目標の数字 (2025年度)
「情報モラル・セキュリティの理解」「端末の基本的操作」「課題解決・探究に おける情報活用」ができる子どもとの割合	しょう 85.1% ちゅう 85.4% (2022年度)	しょう 90% ちゅう 90%
学校の仕事や授業で、コンピューターを使うことや、子どもがコンピューターを 使えるように教えることができると答えた先生の割合	79.1%	95%

取り組み

1. 子どもがコンピューターをえるようになります。

- クラウドサービス、パソコンやタブレット、学習者用デジタル教科書を使います。オンライン授業をします。

2. 先生が子どもにコンピューターの使い方を教えられるようになります。新しい教育センターを作るための準備をします。

- ICTコーディネーターになる人を育てます。
- 教育の場で、デジタル技術を使えるようにするために、新しい教育センターを作ります (2029年オープン予定)。

未来の教育を 良くするための 横浜教育DX

横浜市は日本で一番大きい市です。26万人の子どものデータがあります。学校で使っているタブレットの数が世界でも多い都市です。教育DXを進める都市として、世界の注目を集めることができます。これからは「使えるデータにリソース(人・お金・使えるもの・使い方)が集まる」と言います。新しい教育センターを中心にして、横浜市といるいろいろな人・組織・会社が協力をして、日本の教育DXを進める取り組みをします。

横浜教育DX

よこはまきょういく
横浜教育DXは、

- ◆ ①子ども、②学校の先生たち・学校、③教育委員会のそれぞれが、今よりも良い教育活動ができるようになります。
- ◆ データを今よりもみんなで使えるようにして、横浜の教育が良くなるようにします。

DX戦略を使って「教育を科学」することで、子どもの学びを良くします

新たな教育センター

Message EBPMをもとにした教育DXの中心になる場所

理想の姿

人材育成(人を育てます)

調査・研究・開発
教育相談 発表・発信

Action

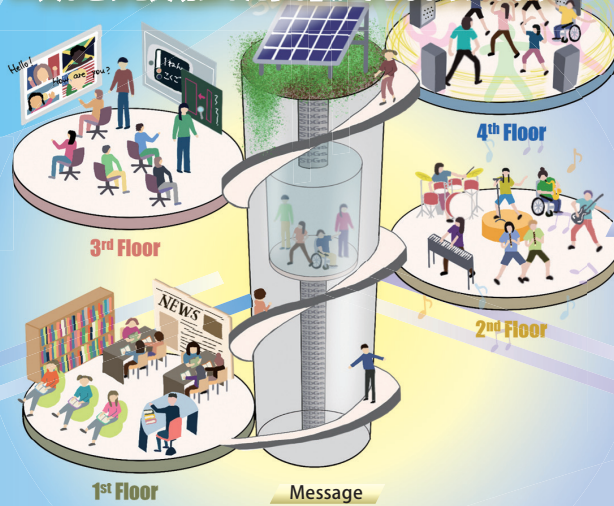
まわりの人と協力
します・研究で
わかったことを
みんなで使います

Action

26万人のデータを使って、
考えます

未来の 子供たちの学び

「一人ひとりを大切にしたい学び」ができるようになります



Commitment
学習履歴(スタディログ)



学校の先生・学校

Message
「誰ひとり取り残さない」
良い学校を作ります

教育委員会

Message
データを使って、教育が
良くなるためのルールを
作ります

一人ひとりに合わせた学びや、まわりの人と協力する学びができるようになります。

Action
データをみんなで使います



施策 3

とくべつ しえんきょういく すす 特別支援教育を進めます

もくひょう ほうこう 目標・方向

いろいろな方法で、勉強できる場所を作ります。病気や障害のある子どももいっしょに、みんなで勉強できるようにします。病気や障害のある子どもを教えるために、先生が専門的なことを勉強できるようにします。

いま しょうたい 今の状態
もんだいてん と問題点

10年間で、病気や障害のある子どもの数が増えました。2021年度は13,790人で、1.7倍に増えています。障害のある子どもを教えるために、先生が専門的なことを勉強したり、学校の中で障害のある子どもを助けるしくみを作ることが必要です。障害は、いろいろな種類があります。学校で、医療的ケア（痰の吸引や呼吸の管理など）ができるかどうかを考える必要があります。

おも もくひょう 主な目標
すうじ の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
病気や障害のある子ども一人ひとりに合わせた学習ができて、それが子どもの成長につながっていると感じている保護者の割合	88%	90%

とく 取り組み

1. 小・中学校で、特別支援教育を進めます。

- 個別支援学級を担当する先生が、障害に関わる免許を取ることができるようにします。医療的ケア（痰の吸引など）が必要な子どもが小中学校に通うことができるようにします。
- 障害のある子どもが通う教室（通級指導教室、特別支援教室実践推進校）を増やします。

2. 病気や障害のある子どもが通うことができる学校（特別支援学校）を増やします

- 病気や障害のある子どもが学校へ通うことができるように助けます。医療的ケア（呼吸の管理など）ができるようにします。小・中学校と特別支援学校が協力して授業の研究をします。

施策 4

いろいろな子どもの状況に合わせた教育をすすめます

もくひょう ほうこう 目標・方向

学校に行っていない子どもが増えています。日本語がわからない子どももいます。いろいろな子どもの状況に合わせた教育をすすめます。

いま しょうたい 今の状態
もんだいてん と問題点

10年間で、学校に行っていない子どもの数は約1.8倍の6,616人になりました。日本語を教えてもらうことが必要な子どもの数は約2.6倍の3,110人になりました。いろいろな状況に合わせた教育をすすめることが必要です。

おも もくひょう 主な目標
すうじ の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
学校に行っていない子どもの中で、安心できる場所があると感じている子どもの割合	78.9%	85%
日本語がわからない子どもの中で、自分を大事にすることや、相手の気持ちを考えることができるようになった子どもの割合※	しょう 小3～6 47.3%	しょう 小3～6 60%

※子どもが答えたアンケート等を横浜市が作った「Y-Pアセスメント」で調べます。1年に2回より多く行くと、子どもの自分に対する気持ちや、他人への気持ちの変化を調べることができます。

とく 取り組み

1. 学校に行っていない子どもを助けます。

- 自分のクラスの代わりに過す場所がある学校を増やします。（校内ハートフル事業）
- 家でオンラインで勉強ができるようにします。（アットホームスタディ事業）

2. 日本語がわからない子どものために支援を増やします。

- 4つ目の日本語支援拠点施設をつくります。
- 国際教室と外国語がわかる職員がいる学校を増やします。

3. 困っている家庭の子どもを助けます。

- 子育てに困っている家庭の子ども、生活や勉強を助けます。
- 定時制高校に通う子どもが相談できる場所を作ります。卒業したあとの、仕事についての相談ができる校内カフェを開きます。

目標・方向

子どもが自分で考えて行動し、学ぶことができるようにするための高校教育を進めます。それぞれの学校の取り組みをより良いものにして、世界で活躍する人を育てます。

今の状態と問題点

市立高校では、それぞれの学校の良さを活かしながら、「総合的な探究の時間」に取り組み、「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指しています。グローバル教育やサイエンス教育も進めています。取り組みをより良いものにしていくことが必要です。いろいろな状況の子どもや、病気や障害がある子どものために、相談ができるところをつくることや手助けをするための取り組みをすることが必要です。また、中学校から高校までの6年間、同じ環境で、計画的・継続的に勉強ができる学校(中高一貫教育校)について、南高校のこれまでの取り組みを振り返り、教育の内容をさらに良いものにしていく必要があります。

主な目標の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ ねんど 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ ねんど 目標の数字 (2025年度)
「総合的な探究の時間」では、自分で考えて行動して、問題が解決できるようになったと答えた子どもの割合	81%	95%

取り組み

1. それぞれの学校の良さを活かしながら、高校教育を進めます。

- 課題探究型学習で、子どもが学習したことを発表をします。学校の先生の研修をします。
- グローバル教育やサイエンス教育を進めます。
- SDGsを考えて、より良い社会を作るために、協力できる人を育てます。(ESD推進校：東高校)
- 教員養成講座を開きます(桜丘高校)

2. いろいろな状況の子どもの手助けをします

- 市立高校で、一人ひとりの障害の状況に合わせて勉強することや学校生活を過ごしやすくするための指導をします。(通級による指導)

ねんかんつづ べんきょう
9年間続けて勉強できるようにしていきます
ようちえん ほういくえん しょうがっこう きょうりょく
幼稚園・保育園・小学校が協力できるようにします

目標・方向

小学校から中学校までの9年間、続けて勉強できるようにします。幼稚園・保育園・小学校が協力できるようにします。小学校に入った時に困ることを少なくします。

今の状態と問題点

義務教育学校や併設型小・中学校では、特別な制度を利用して、9年間続けて勉強できるようにしていくことが必要です。子どもが小学校に入る前までにできてほしいことを、幼稚園・保育園・小学校がいっしょに考えて、協力することが必要です。

取り組み

1. 小中一貫教育(9年間、同じ学校で勉強すること)をより良いものにします。

- 義務教育学校や併設型小・中学校で、それぞれの学校に合う科目を作ります。

2. 5さいから7さいまでの子どものために、幼稚園・保育園・小学校が協力をします。

- 子どもが小学校に入る前までにできてほしいことを、幼稚園・保育園・小学校がいっしょに考えます。



はしらく 施策 1 えいご べんきょう いま よ くに べんきょう 英語の勉強を今よりも良いものにします。いろいろな国のことを勉強します

もくひょう ほうこう 目標・方向

せかいじゅう ひと たすけ あ しごと せいかつ ひと そだ えいご くに べんきょう 世界中の人と助け合い、仕事や生活ができる人を育てます。英語やいろいろな国のことを勉強します。

いま しょうたい 今の状態と問題点

えいご はな がいこくじん せんせい ぜんぶ しょうがっこう ちゅうがっこう こうとう がっこう がいこくじん せんせい えいご じゅぎょう じぶん 英語を話す外国人の先生(AET)が全部の小学校、中学校・高等学校にいます。外国人の先生が、英語で授業をしたり、自分の国や文化などを紹介する授業があります。英語やいろいろな国のことを勉強できます。これからも、英語を使って、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして、自分の気持ちや考えを他の人と伝え合えるようにしていきます。他の国の文化を知り、自分の国の文化を考えることが大切です。

おも もくひょう 主な目標の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
えいご つか き はな よ か じぶん 英語を使って、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして、自分の気持ちや考えを他の人と伝え合いたいと思う子どもの割合	しょう 小6 73.9% ちゅう 中3 66.5%	しょう 小6 80% ちゅう 中3 70%
ちゅうがっこう そつぎょう とき えいご けん定 3 級 より 上の 級 を 持 っ て い る こ ども の 割 合	54.9%	60%

とく 取り組み

1. えいご き はな よ か じぶん きも かんが つか あ 英語で聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして、自分の気持ちや考えを伝え合えるようにします。

- AET (Assistant English Teacher) が全部の小学校に行きます。AETが全部の中学校・高等学校にいます。英語を専門に教える先生がいる小学校を増やします。
- 横浜ラウンドシステム*を使います。英語の授業で先生や児童生徒が使うデジタル教材をウェブページで使えるようにします。
※教科書などを、1年間に何回も使って、一人ひとりに合った外国語を使えるようにする方法

2. いろいろな国のことを知る勉強をします

- いろいろな国のことを知るができる授業や、よこはま子ども国際平和プログラムを行います。

はしらく 施策 2 みらい かんきょう しげん よ しゃかい つく ひと そだ 未来のために、環境や資源をこわさないで、より良い社会を作ることができる人を育てます。

もくひょう ほうこう 目標・方向

みらい かんきょう しげん よ しゃかい つく ひと そだ 未来のために、環境や資源をこわさないで、より良い社会を作ることができる人を育てるために、SDGsのことを考えて、協力できる人を育てます。

いま しょうたい 今の状態と問題点

SDGsのことを考えて、協力できる人を育てることをESDと言います。ESDをしている学年と、していない学年があります。学校全部で取り組むことが大事です。また、子どもが自分で考えて動くことができるように、会社などと協力して、取り組むこと(「自分づくり(キャリア)教育」)が大事です。

おも もくひょう 主な目標の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
ちいき しゃかい もんだい べんきょう とき じぶん み 地域や社会の問題を勉強している時に自分たちで見つけて、答えを出すことができると思う子どもの割合	しょう 小4~6 平均 69.3% ちゅう 中1~3 平均 62.1% (2022年度)	しょう 小4~6 平均 72% ちゅう 中1~3 平均 65%

とく 取り組み

1. SDGsのことを考えて、協力できる人を育てます。(ESD)

- 「横浜市ESD推進コンソーシアム」*が、協力をします。
- SDGsのことを考えて、協力できる人を育てることができるように、ESDを良いものにします。
※市立学校で、ESDの考え方をもとにした教育が広がるように、いろいろなグループが参加・協力している集まりのこと。

2. 自分づくり(キャリア)教育実践プロジェクトを良いものにします。

- 「はまっ子未来カンパニープロジェクト」*に取り組む学校を増やします。
- 「自分づくり(キャリア)教育」を進めている学校を増やします。
※会社などと協力して、社会の問題を解決していく学校の取り組み



施策 1 ひと う けんり たいせつ きょういく
人が生まれながらにもつ権利を大切にできる教育をします

目標・方向
 今の状態と問題点
 おも、主な目標の数字

ひとり 安心して過ごすことができる学校を作ります。自分も他の人も大切にできる心豊かな子どもを育てます。

周りの人とつながりが少なくなっています。子どもの人権が大事にされないことがあります。自分も他の人も大切にできる心を育てることやそのための仕組みが必要です。Y-Pアセスメントをうまく使っていきます。道徳教育を充実します。普段出会えないスポーツや芸術などに関わる人との出会いを作ることも大事です。

目標の数字	今の数字 (2021年度)	目標の数字 (2025年度)
子どもが答えたアンケートを調べて、自分や他の人を大切にすることについての数字について、クラス平均が上がった割合*	小3~6 48.1%	小3~6 60%

※子どもが答えたアンケート等を横浜市が作った「Y-Pアセスメント」で調べます。1年に2回より多く行くと、子どもの自分に対する気持ちや、他人への気持ちの変化を調べることができます。

取り組み

1. 横浜市独自の指導プログラム「子どもの社会的スキル横浜プログラム」をもっと使います。

- Y-Pアセスメントを1年に2回より多く行う学校を増やします。
- 「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を周りの先生に教えることができる先生を育てます。

2. 芸術・伝統文化・スポーツ・自然などを感じる時間を作ります。

- 子どもが、オーケストラやバレエなどをみに行く体験ができるようにします。
- オリンピックやパラリンピックに出たスポーツ選手と会える時間を作ります。

施策 2 あんしん べんきょう がっこう
安心して勉強できる学校づくり

目標・方向
 今の状態と問題点
 おも、主な目標の数字

先生たちが、子どもたちの変化に気づいたり、安心して相談できるようにします。子どもたちの周りのいろいろな問題に学校がチームで取り組むことができるようにします。

2021年度、学校が見つけたいじめは7,556件でした。前の年よりも増えました。いじめがあるとわかった数が多い学校は、いじめを見つけて、なくすようにしている学校だと国は考えています。横浜市も、いじめを早く見つけることができるように取り組んでいます。これからも、専門家や関係するところと協力して、いじめを早く解決できるようにする必要があります。

目標の数字	今の数字 (2021年度)	目標の数字 (2025年度)
子どもが答えたアンケートを調べて、自分や他の人を大切にすることについての数字について、クラス平均が上がった割合*	小3~6 48.1%	小3~6 60%

取り組み

1. 安心して参加できる集まりを作ります。

- 人が生まれながらにもつ権利を大切にできるよう先生にいろいろな研修を行います。
- 「横浜子ども会議」を行い学校と保護者、地域が協力していじめ問題に取り組みます。

2. 子どもたちの周りのいろいろな問題に学校がチームで取り組むことができるようにします。

- また、問題が起きないように工夫します。
- 「児童支援・生徒指導専任教諭」が、課題解決に時間を使えるように、学校にいる先生の人数を増やします。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがいる学校を増やします。



施策 1 けんこう からだ つく ちゅうがっこう きゅうしょく だ 健康な体を作ります。中学校で給食を出すようにします

もくひょう ほうこう 目標・方向

こ けんこう からだ つく こ まんぞく きゅうしょく だ 子どもの健康な体を作ります。子どもたちみんなが満足する給食を出すことができるようにします。

いま しょうたい 今の状態と問題点

ねん がつ ちゅうがっこう たの えら きゅうしょく たの いま た もんだい 2021年4月から、中学校で、頼むか選ぶことができる給食をはじめましたが、もしみんなが頼むと今のままだと足りなくなる問題があります。横浜市は、子どもと先生の数が日本で一番多いです(約83,000人)。みんなが給食を頼むことができるようにすることが必要です。また、コロナウィルスが流行ったので、横浜市の子どもの体力は前よりも低くなりました。子どもたちが生きている間ずっと健康な体でいることが大切です。

おも もくひょう 主な目標の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
ちゅうがっこう きゅうしょく たの 中学校給食を頼むことができるかどうか	さいだいいち 最大40% (2022年度)	ようい みんなに用意できるようにする
たいりょく うんどう とくせい 体力、運動が得意かどうかや、性別や障害があるかないかに関係なく、いろいろな人と運動やスポーツを楽しみたいと思う子どもの割合	85% (2022年度)	88%

と 取り組み

1. せいと みんなが満足できる給食を用意します。食事に關係することを教えて、健康な生活ができるように育てます(食育)。

- ちゅうがっこう せいと げんそく きゅうしょく た 中学校の生徒が原則給食を食べるようにします。みんなが頼むことができ、満足する給食を出すために、準備をします。
- しょくいく すいしん ネットワークを持つ小中学校ブロックを増やします。

2. けんこう からだ す 健康な体で過ごすことができるようにします。いつまでもスポーツができるようにします。

- しょうちゅうがっこう すこ からだ いくせい 小中学校で、「健やかな体の育成プラン」をたてます。

3. つづ 続けることができ部活動を作ります。

- よこはま しりつ がっこう ぶ かつどう つく 「横浜市立学校部活動ガイドライン」を進めます。
 - ぶ かつどう じょうずん (おし ひと) や ぶ かつどう がっこう 部活動指導員(教える人)や部活動コーディネーター※が学校にいます。
- ※短い時間でできるよい部活動ができるように、子どもや先生に教えます。

4. は たいせつ おし 歯の大切さを教えます。

- はいしや せんせい きょうりょく は たいせつ おし 歯医者先生などと協力して、歯の大切さを教えます

5. けんこう からだ つく 健康な体を作るための勉強をします。

- かんせんしょう しょうがい いぞんしょう いま じだい びょうき かんが 感染症やゲーム障害などの依存症など、今の時代の病気をなくすために考えます。

はしら 柱 5 かてい ちいき ひと ばしよ きょうりよく 家庭・地域など、いろいろな人・場所と協力する



はしらく 施策 1 いろいろな人・場所とつながる教育をより良くします

もくひょう ほうこう 目標・方向

こ しゃかい じかん ばしよ つく 子どもたちと社会がつながる時間や場所を作ります。

いま しょうたい 今の状態
もんだいてん 問題点

ちいき がっこう きょうりよく こ あんぜん あんしん 地域と学校が協力すること、子どもが安全に安心してすこせるようにすることを続けていく必要があります。
がっこう い とし かせ とし みち あんぜん みまも さいがい お とし 学校へ行く時と帰る時の道を安全に見守る・災害が起こった時にどうするかを教える・地域のみんがより良く生きるための活動を行うなど

おも もくひょう 主な目標
すうじ 数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
ほご しゃ ちいき ひと きょうりよく がっこう きょうりよく すいじゆん あ 保護者と、地域の人が協力したので、学校の教育水準が上がったと こた がっこう わりあい 答えた学校の割合	しょう 小 93.7% ちゅう 中 87.3%	しょう 小 95% ちゅう 中 95%

とく 取り組み

1. 地域と協力します

- がっこう ちいき 学校運営協議会委員のための研修をします。学校・地域コーディネーターを育てます。
- がっこう かてい 学校と家庭の間の道を安全にします。子どもが学校に行く時・帰る時の見守り活動を行います。
- かてい ちいき 家庭や地域と協力して、災害が起こった時のために準備をします。
- としよ 高齢者や障害がある人の施設に行き、話をしたりします。手話や車椅子の体験をします。地域や社会のことを勉強します。

はしらく 施策 2 福祉に関係するところや病院などと協力をして、子どもを支えます

もくひょう ほうこう 目標・方向

ふくし かんけい びょういん きょうりよく こ ささ 福祉に関係するところや病院などと、さらに協力をして、子どもを支えます。

いま しょうたい 今の状態
もんだいてん 問題点

こ ひとり 子ども一人ひとり、いろいろな問題を持っています。学校から家に帰っても保護者がいない子どもや、医療的ケアが必要な子どももいます。一人ひとりを支えるために、福祉に関係するところや病院などと、協力をすることがとても大切です。

とく 取り組み

1. 福祉に関係するところや病院などと、もっと協力をします。

- せんもんか 学校ソーシャルワーカーや学校カウンセラー、専門家や関係するところとのつながりを強めます。
- ほうかご 放課後キッズクラブや放課後児童クラブとの協力を強めます。
- よこはまがたいりょうてき 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターが家庭を助けます。

はしらく 施策 3 かてい きょうりよく たす 家庭での教育を助けます

もくひょう ほうこう 目標・方向

かてい きょうりよく たす 家庭での教育を助けます。

いま しょうたい 今の状態
もんだいてん 問題点

ちいき すく 地域とのつながりが少なくなり、環境がとても変わっています。家庭での教育をするために、勉強する場所を作ったり、ほかのかてい ほご しゃ ちいき ひと はな 家庭の保護者や、地域の人と話ができるように助けることが必要です。

とく 取り組み

1. 関係するところや、地域と協力して、家庭での教育を助けます。

- おやこ 親子体験活動、講演会などをします。
- びょうき 病気や障害のある子どもがいる保護者のための教室をひらきます。
- しょうちえん 幼稚園・保育園・小学校が協力をして、小学校に入る前の子どもがいる保護者が、学校の見学ができるようになります。
- ししゆんき 思春期の子どもと、その保護者のための、教室をひらきます。思春期の子どもの体や心のことを勉強します。



しやく 施策 1 がっこう せんせい とし けん せんせい のち はたら かた か
学校の先生になる時の試験や、先生になった後の働き方を変えます

もくひょう ほうこう 目標・方向

じ がっこう いえ かえ はたら かた か せんせい べんきょう
19時までに学校から家に帰るようにします。働き方を変えて、先生が勉強する
じかん つく がっこう せんせい も ちから たか
時間を作ります。学校の先生の持っている力を高めるようにします。

いま しょうたい 今の状態
もんたいでん と問題点

がっこう せんせい ひと まいとし へ なか き ちから も せんせい み ひつよう
学校の先生になりたい人は、毎年、減っています。そのような中でも、やる気や力を持っている先生を見つめる必要があります。
せんせい ひと たす じゆぎょう べんきょう じかん ひつよう きんむ じかん のぞ がっこう
先生になったばかりの人を助けることや、授業のために勉強をする時間をつくる必要があります。勤務時間を除いて学校にいる
じかん げつ じかん せんせい かず へ いま なか じかん がっこう はたら せんせい せんせい はたら
時間が1か月に80時間をこえる先生の数は減っています。しかし、今も、長い時間、学校で働いている先生もいます。先生の働き
かた ぜんぶ か
方はまだ、全部、変えることができていません。

おも もくひょう 主な目標
すうじ の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ ねんど 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ ねんど 目標の数字 (2025年度)
も ちから あ せんせい わりあい 持っている力が上がった先生の割合※1	92%	95%
きんむ じかん のぞ がっこう じかん げつ つづ げつ 勤務時間を除いて学校にいる時間が2か月続けて、1か月に じかん せんせい かず 80時間をこえる先生の数※2	2,798人	0人 (毎年度)
じ がっこう かえ せんせい わりあい 19時までに学校から帰る先生の割合	75.9%	90%

ぶんせき ひょう じぶん ちから あ こた せんせい わりあい
※1 分析した表をみて、自分の力が上がったと答えた先生の割合。
おな ねんど なか かい げつれんぞく せんせい かず はい もくひょう きそく き げつ じかん
※2 同じ年度の中で、1回でも2か月連続だった先生は、この数に入ります。この目標ができれば、規則で決めた1か月45時間
という目標にすることを考えます。

とく 取り組み

- せんせい よ ひと み せんせい しごと まえ ひと そだ
1. 先生になる良い人を見つけます。先生の仕事を始める前の人を育てる。
 - せんせい とし けん ほうほう か けん とし し
● 先生になる時の試験の方法を変えます。試験の時のお知らせをよくします。
 - せんせい ひと う きょうしじゆく ひら
● 先生になりたい人が受けることができる、よこはま教師塾を開いています。
- せんせい あと べんきょう つづ せんせい たす
2. 先生になった後も勉強を続けることができるように先生を助けます。
 - けんしゅうかんり つか べんきょう つく
● 研修管理システムを使って、勉強するしくみを作ります。
 - つか けんしゅうほうほう かんが
● コンピューターを使って、いろいろな研修方法を考えます。
- こ おし つく せんせい かず かんが き
3. チームで子どもたちを教えるしくみを作ります。先生の数を考えて決めます。
 - こ おし かんが がっこう せんせい きょうりよく
● チームで子どもたちを教えると、学校の先生たちがまとまり、協力できるようになります。
 - せんせい せんもん しえんいん がっこう
● 先生ではない専門スタッフなど (ICT支援員など) が学校にいます。
- がっこう しごと よ
4. 学校での仕事を良くします。いらぬものはなくします。
 - がっこう しごと なか なに ひつよう かんが かいしや たの す
● 学校での仕事の中で、何が必要なのか、いらぬかを考えます。会社に頼むことも進めます。
 - つか せんせい はたら かた よ か
● コンピューターを使って、先生の働き方をより良いものに变えます。
 - ぶかつどう か ぶかつどう おし ひと ちいさ ひと おし かんが
● 部活動を変えます (部活動を教える人をつけることや、地域の人が教えることも考えます)。
- こうちょうせんせい かんり ちから かんが かた か
5. 校長先生などの管理する力をあげます。考え方を変えます。
 - がっこう せんせい じかん けつか つか がっこうきょういく じむしょ がっこう たす
● それぞれの学校の先生のはたらいた時間をまとめます。まとめた結果を使って、学校教育事務所が学校の助けをします。
 - こうちょうせんせい はたら かた かんが けんしゅう こうちょうせんせい ねん こうちょうせんせい さんか
● 校長先生のために働き方考える研修をします。校長先生になってから2年よりみじかい校長先生が参加します。



しさをく 施策 1

がっこう たてもの あたら
学校の建物を新しくします

もくひょう ほうこう
目標・方向

けいかく がっこう たてもの あたら
計画をたてて、学校の建物を新しくします。

いま じょうたい
今の状態
もんだいてん
と問題点

いま がっこう たてもの た ねん なが じかん ふる あたら ひつよう つか
今の学校の建物の40%が、建ててから50年より長い時間がたっています。古いので、新しくすることが必要です。使いやすくしたり、他の学校と一しょにすることも考えます。

おも もくひょう
主な目標
すうじ
の数字

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ ねんど 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ ねんど 目標の数字 (2025年度)
たてもの あたら がっこう かず 建物を新しくする学校の数	こう ねんど ごうけい 4校(※2021年度までの合計)	こう ねんど ごうけい 17校(※2025年度までの合計)

とく 取り組み

※「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」を2017年5月に決めました。決めたあとに、新しくする学校の数です。

1. 計画をたてて、学校の建物を新しくします。

- 新しくする学校を決めます。どのような建物にするか決めます。
- 建替え基本方針を、もう一度、考えます

2. まわりの自然を考えた学校にします

- 新しくする時に、学校の建物の中に木を使います。太陽光発電の機械を学校に置きます。

しさをく 施策 2

あんぜん あんしん ばしよ
安全・安心な場所にします

もくひょう ほうこう
目標・方向

あんぜん あんしん つか ばしよ
安全・安心で、みんなが使いやすい場所にします。

いま じょうたい
今の状態
もんだいてん
と問題点

がっこう たてもの ふる ぶぶん なお つか か
学校の建物などの古くなった部分を直します。エアコンやエレベーターをつけたり、使いやすいトイレに変えます。みんなが使いやすい建物にすることが大切です。

とく 取り組み

1. 子どもが安全に過ごせる学校にします。

- 学校の外側や窓を新しくします。危ない所を減らします。ブロック塀が倒れないようにします。

2. みんなが使いやすい建物にします。

- エアコンを新しくします。使いやすいトイレに変えます。エレベーターをつけます。太陽光発電の機械を置きます。

しさをく 施策 3

がっこう おお
ちよどいい学校の大きさや、
どこに住んでいる子どもが通うかを考えます。

もくひょう ほうこう
目標・方向

がっこう おお かんが す こ
ちよどいい学校の大きさにすることを考えます。どこに住んでいる子どもが
どこの学校に通うのがいいかを考えます。

いま じょうたい
今の状態
もんだいてん
と問題点

がっこう おお す こ がっこう かよ かんが おや おや か ひと がっこう
ちよどいい学校の大きさや、どこに住んでいる子どもがどこの学校に通うかを考えるときは、親や親の代わりに人、学校の近所に住む人たちと一しょに考えることが必要です。

とく 取り組み

1. ちよどいい学校の大きさや、どこに住んでいる子どもがどこの学校に通うかを考えます。

- 2つの中学校が一しょになって、上白根中学校が新しくできました。阿久和小学校・いずみ野小学校、日限山小学校・みなみまいおかしやがっこう ひがしつかしょうがっこう さいとうぶんしょうがっこう がっこう おお かんが
南舞岡小学校、東戸塚小学校、斎藤分小学校について、ちよどいい学校の大きさにすることを考えます。



しやく 施策 1 しょうがいがくしゅう 生涯学習ができるようにします

- **目標・方向** 横浜市に
- **今の状態と問題点** 100年
- **取り組み** 生涯学習

よこはまし す ひと しょうがいがくしゅう しゃかい さんか
 横浜市に住んでいる人が生涯学習をしたり、社会に参加できるようにします。

にんげん ねん い 人間は100年生きることができるようになったと言われています。その中で、いくつになっても勉強することが大切
 です。また、社会参加をする人を増やすために、みんなで勉強する活動をする人を育てることも大切です。

しょうがいがくしゅう 1. 生涯学習ができるようにします

- 横浜市に住んでいる人が参加できる活動と呼びかける人を育てます。
- 子どもが大人の仕事を体験できるプログラムを開きます。(「子どもアドベンチャーカレッジ」)

しやく 施策 2 としょかん 図書館をどうしたらよいか考えます。 みんなが本を読むようにします。

- **目標・方向** 市立図書館で、勉強
- **今の状態と問題点** 18館
- **主な目標の数字** 1,160万冊/年
- **取り組み** 図書館

しりつ としょかん べんきょう きも す ばしよ かんが
 市立図書館で、勉強をしたり、気持ちよく過ごせる場所になるように考えます。

みんなが本を読むようにします。

しりつ としょかん かん なか かん た ねん ふる けいかく
 市立図書館は、18館あります。その中の6館が、建ててから40年より古くなっています。計画をたてて、なおしたり、
 あたらしくする必要があります。まちが良くなるように、図書館をこれからどうしたらよいか考える必要があります。
 また、市民が本を読むようにしたり、地域や学校で本をすすめることが必要です。

もくひょう すうじ 目標の数字	いま すうじ 今の数字 (2021年度)	もくひょう すうじ 目標の数字 (2025年度)
としょかん か ほん かず 図書館で貸した本の数*	まんざつ ねん 1,160万冊/年	まんざつ ねん 1,200万冊/年
しりつ としょかん かんが 市立図書館をどうしたらよいか考えます	-	ねん ど き 2023年度に決めます

*市立図書館で貸した本の数(電子書籍も含まれます)と、他の市で横浜市民に貸した数

としょかん かんが としょかん よ 1. 図書館をこれからどうしたらよいかを考えます。図書館のサービスを良くします。

- 図書館をこれからどうしたらよいかを調べて、考えます。どのような図書館にするか決めます。図書館の本と電子書籍の数を増やします。

ほん よ 2. みんなが本を読むようにします。

- ボランティアの活動を助けます。横浜市全体で本を読む場所や時間を作ります。学校の図書館で働く司書や先生の研修をします。

しやく 施策 3 よこはま れきし べんきょう ふ 横浜の歴史の勉強をができるところを増やします

- **目標・方向** 文化財
- **今の状態と問題点** 歴史
- **取り組み** 文化財

ぶんかざい まも たいせつ つか み し 文化財を守り、大切に使ったり、見せたり、知ってもらったりします。

れきし ぶんか べんきょう 歴史文化を勉強できるようにします。

よこはまし ぶんかざい よこはま れきし し だいじ たいせつ つか み し
 横浜市にあるいろいろな文化財は、横浜の歴史を知るために、とても大事です。大切に使ったり、見せたり、知って
 もらったりすると、地域が魅力的になったり、人が集まるようになります。未来まで残していく必要があります。

よこはまし ぶんかざい まも たいせつ つか み し 1. 横浜市にある文化財を守り、大切に使ったり、見せたり、知ってもらったりします。

- 「横浜市文化財保存活用地域計画」を作ります。無形民俗文化財を調べます。史跡などを安全なものにします。

よこはま れきし ぶんか し 2. 横浜の歴史文化をいろいろなところで知ることができるようにします。

- 博物館学芸員などが学校で授業をします。文化財を使った授業の動画を作ります。



だい き
第4期

ねん がつ ほんごう
2023年2月発行

よこはま し きょういく しんこう きほん けいかく
横浜市教育振興基本計画

がいよう ほん
概要版

よこはま しきょういく いいん かい じむきょくきょういくせいさくすいしん か
横浜市教育委員会事務局教育政策推進課

よこはま し なか く ほんちよう
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 ☎ 045-671-3243 | FAX 045-663-3118 |

ホームページ 第4期横浜市教育振興基本計画

検索